第2回終活意識全国調査報告書
【確定版】

2025年7月

NPO法人ら・し・さ（終活アドバイザー協会）

ごあいさつ

2003年10月に発足した当法人は、人生後半期における暮らしとマネーに関する情報提供を目的として、現在まで20年以上活動を続けてまいりました。発足の翌2004年に発刊したエンディングノート（現在の「ら・し・さノート®」）は、ライフプラン・資産管理・ラストプランの三部構成により、従来の暗いイメージを払拭し、夢をもって生きるためのツールとして広く普及し、多くの方々に活用いただいております。

私たちの活動は、エンディングノートの書き方セミナーや、「終活」という概念の体系化を通じて発展し、2016年からは終活アドバイザー検定を実施、現在では4,000名を超える終活アドバイザーが登録する組織へと成長しました。そして社会的にも終活への関心が高まる中、2020年には全国規模での「第１回終活意識全国調査」を実施し、公表しました。

今回の第２回調査は、第1回調査から4年が経過した現在の終活意識や情報認知度の変化を捉えるだけでなく、新たに「おひとりさま」に関する調査項目を加え、国民一人ひとりの終活課題を“見える化”することを目的としています。

当法人の理念は、「人生後半期をあなたらしく有意義に過ごす」ことを支援することにあります。「自分らしさ」を保ちながら、経済面・健康面の安心を自らがデザインしていく――それが私たちの願いです。

本調査の結果が多くの方々に活用され、自分らしい未来を描く一助となることを心より願っております。

2025年（令和7年）年7月15日

特定非営利活動法人ら・し・さ　　理事長　若色 信悟

調査概要

◆調査目的　：　高齢社会における終活意識の実態を明らかにし、
個人が豊かで安心した人生後半期を送るための支援策や啓発活動に役立てる

◆調査対象　：　20～89歳の男女
◆調査地域　：　全国
◆調査方法　：　インターネットリサーチ
◆調査時期　：　2024年12月4日(水)～12月6日(金)
◆回答者数　：　2,052名
◆割付方法　：　人口構成比割付(令和2年国勢調査の性年代別人口比率に基づく)
◆調査委託先：　株式会社マクロミル

回答者プロフィール

◆性別(%)

		男性	女性
全体		48.5	51.5
調査回別	2020年	48.4	51.6
	2024年	48.5	51.5

◆年齢(歳)

		平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		52.43	16.90	20.00	89.00
調査回別	2020年	51.87	16.56	20.00	88.00
	2024年	53.29	17.37	20.00	89.00

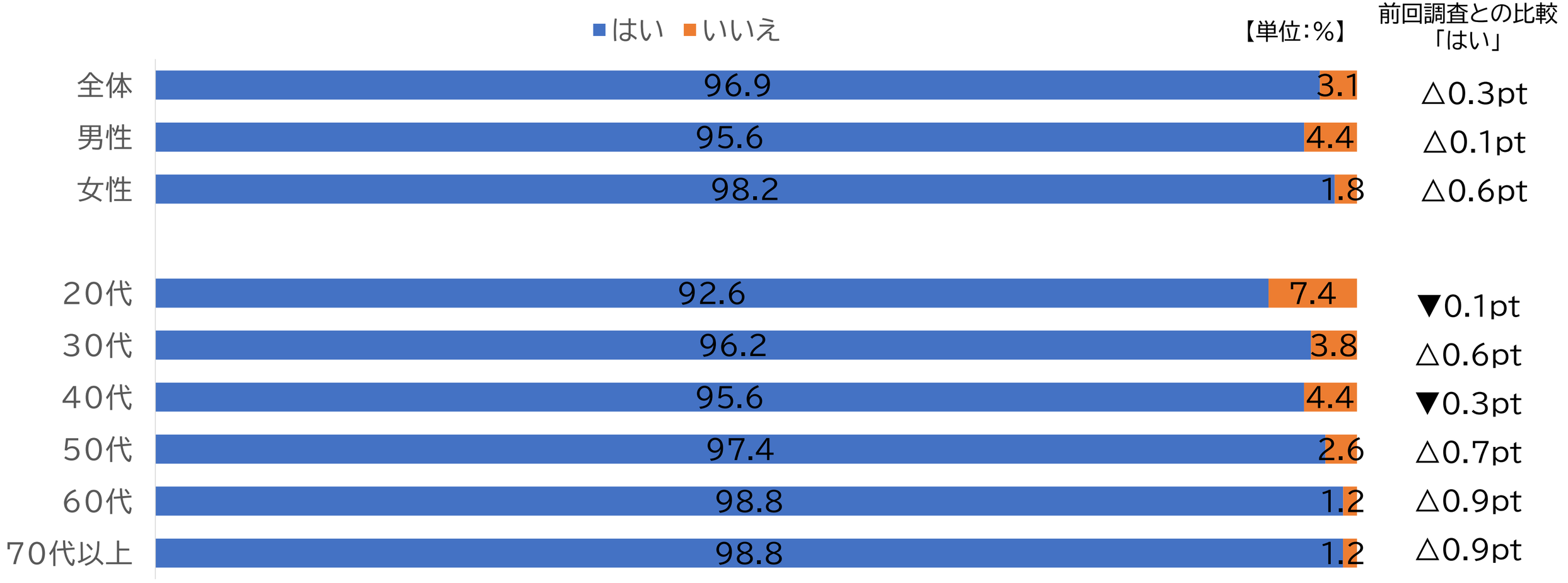
◆子供なし/あり(%)

		子供なし	子供あり
全体		38.7	61.3
調査回別	2020年	38.2	61.8
	2024年	39.5	60.5

Q1.あなたは、終活という言葉を聞いたことがありますか？

全体・男女別・年代別

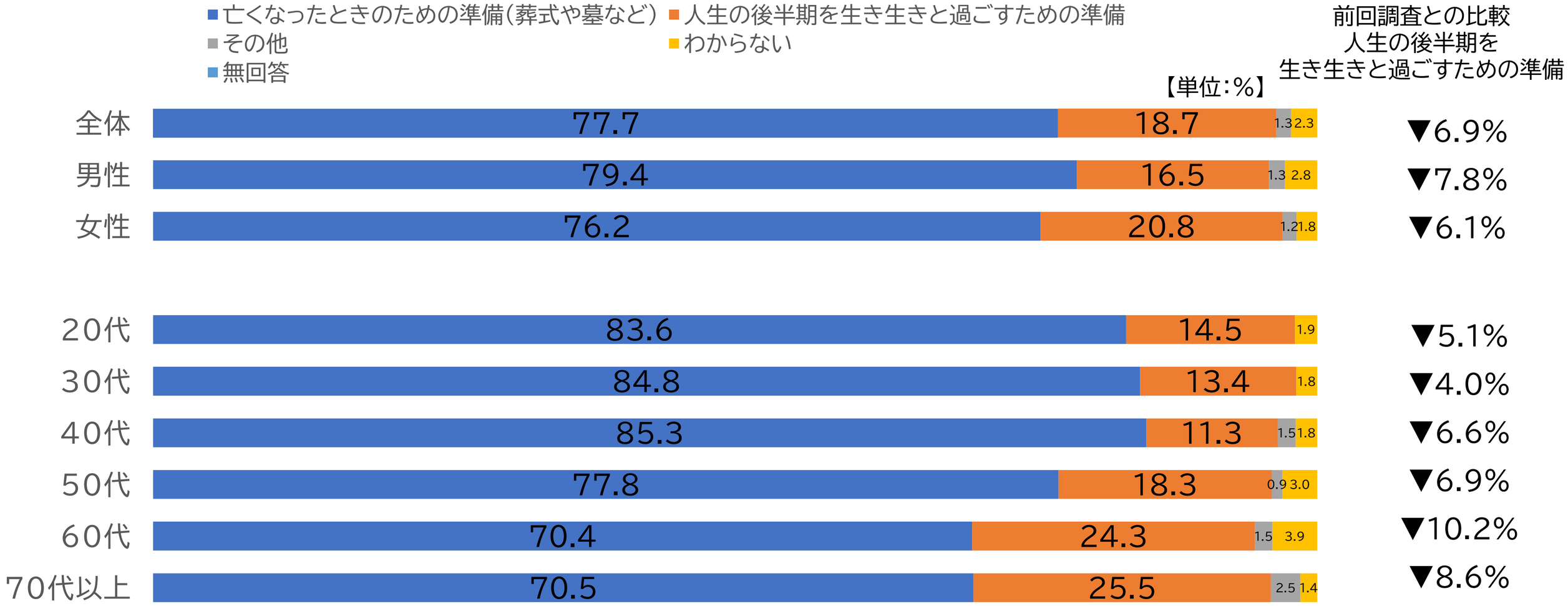
全体の認知度は96.9%と、前回とほぼ同じでした。また、男女別では女性がやや高いですが、男性も95.6%と高い認知度となっています。年代別では、60代以上の認知度が98.8%と、ほぼ全員が聞いたことがあるという結果になっています。
2009年に初めて登場したとされている「終活」の認知度は、ほぼ上限にまで高まり、「終活」は、いまや完全に社会に根づいたと言葉と言えるでしょう。



Q2.あなたは、終活に対し、どのようなイメージをお持ちですか？

全体・男女別・年代別

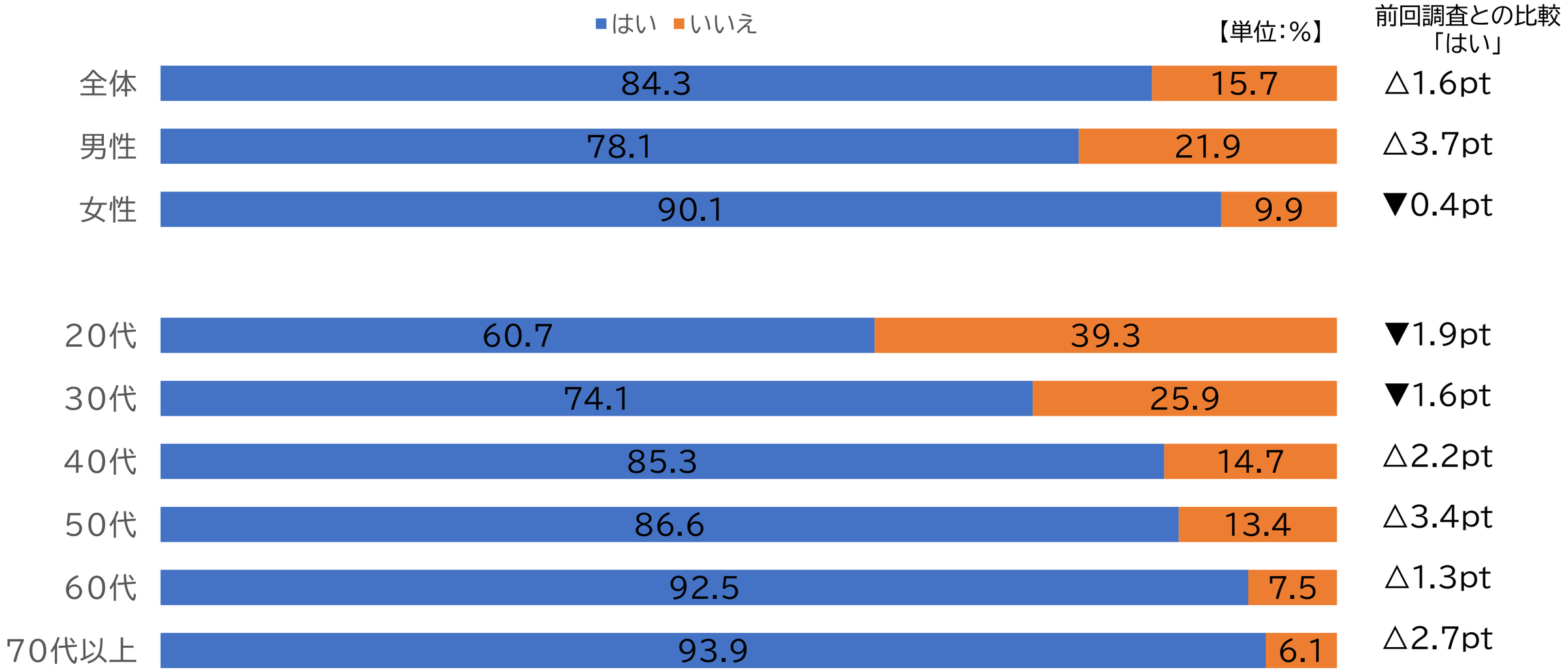
「「人生の後半期を生き生きと過ごすための準備」と、終活を前向きに捉えている人が前回よりも7pt減少し18.7%になった一方、「亡くなったときのための準備」と回答した人は6.9pt増加し、77.7ptになりました。いまだに、終活に対してマイナスのイメージを持つ人の割合が高いことが分かります。ただし、前回同様、高齢になるほど終活に対して前向きで明るいイメージを持つ人の割合は高くなっています。



Q3.あなたは、「エンディングノート」という言葉を聞いたことがありますか？

全体・男女別・年代別

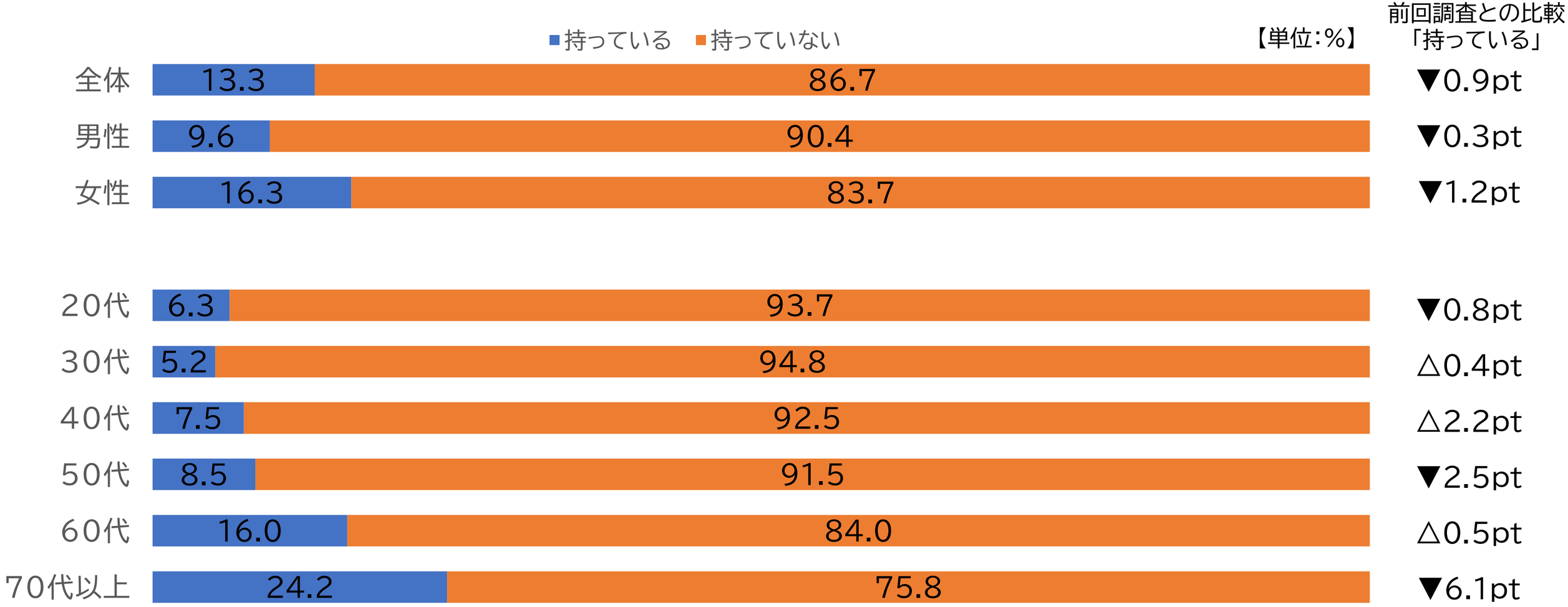
エンディングノートの認知度は、84.3%と高い割合となっています。特に女性の認知度は高く、前回、今回とも9割を超えていますが、伸び率は横ばいでした。一方男性の認知度は78.1%と女性より低い割合ですが、前回より3.7pt伸びました。



Q4.あなたは、「エンディングノート」を持っていますか

全体・男女別・年代別

エンディングノートを持っている人の割合は全体で13.3%と、前回から伸びていません。特に70代では前回より6.1pt減少し全体の伸び率を押し下げました。男女別では男性9.6%、女性16.3%と、前回同様、男女差があります。女性はセミナー、行政、友人・家族からの紹介など終活に触れる機会が高いことが理由と考えられます。

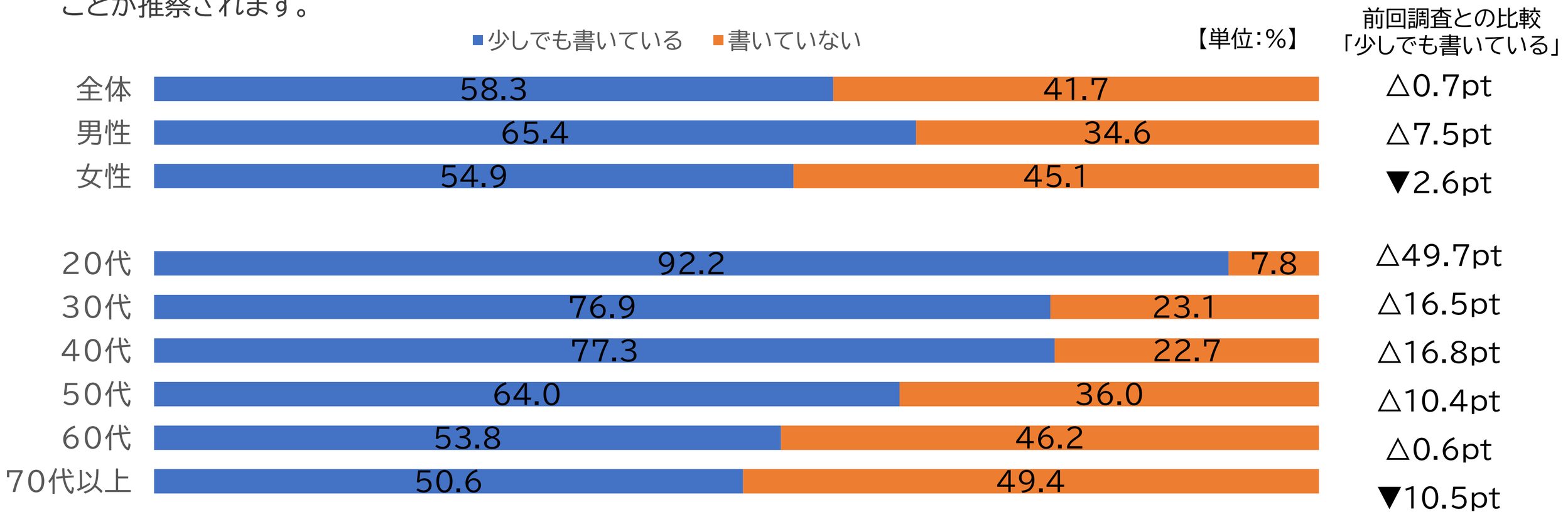


Q5.あなたは、「エンディングノート」を書いていますか？※エンディングノート所有者のうち

全体・男女別・年代別

【男女別】エンディングノート（以下、ノート）を持っている人のうち、書いている人の割合は男性が65.4％で女性よりも高く、また前回より大きく伸びました。一方、女性で書いている人の割合は54.9％で、前回よりも減少しました。終活に対する思い、財産の多寡、ノートの入手方法（購入、無償）など事情の違いが考えられます。

【年代別）】70代以上の人は前回よりも書いている人の割合が10.5pt低下しました。一方50代以下の世代では前回より10pt以上増えました。特に20代では、書いている人の割合が9割以上と、書くことを意識して所有していることが推察されます。



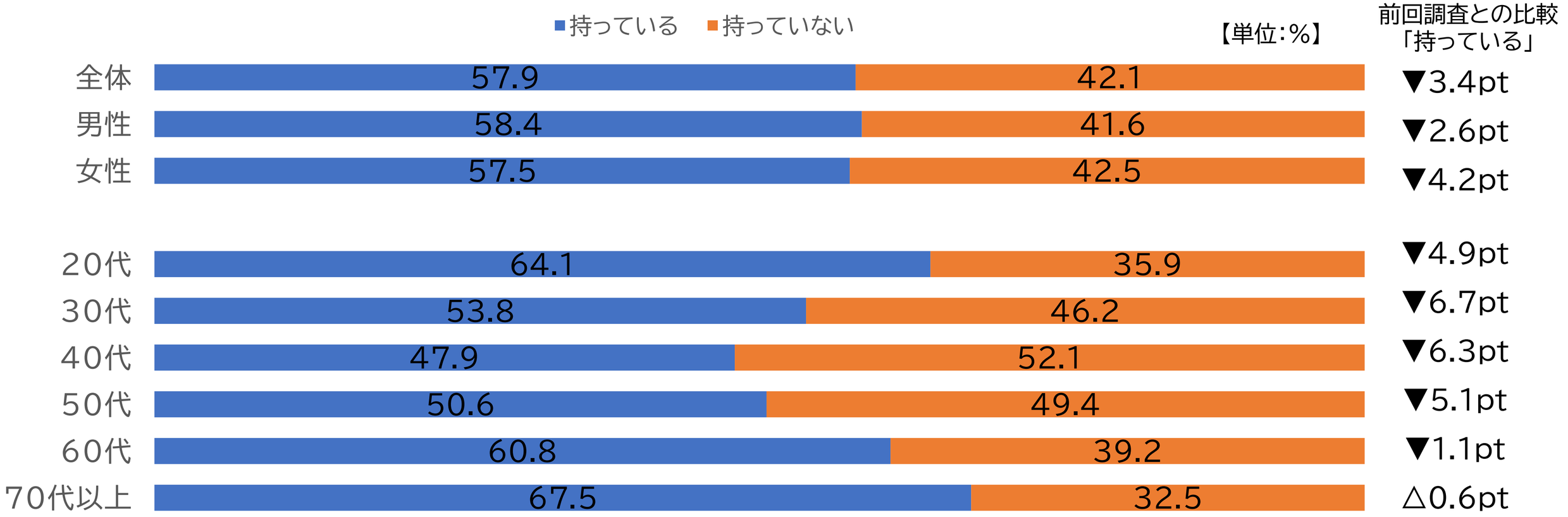
※20代～50代については、30サンプル未満のためコメント対象外となります。

Q6.あなたは、「夢」や「生きがい」を持っていますか？

全体・男女別・年代別

「夢」や「生きがい」を持っている人の割合は全体で57.9%と前回よりもやや減少しました。

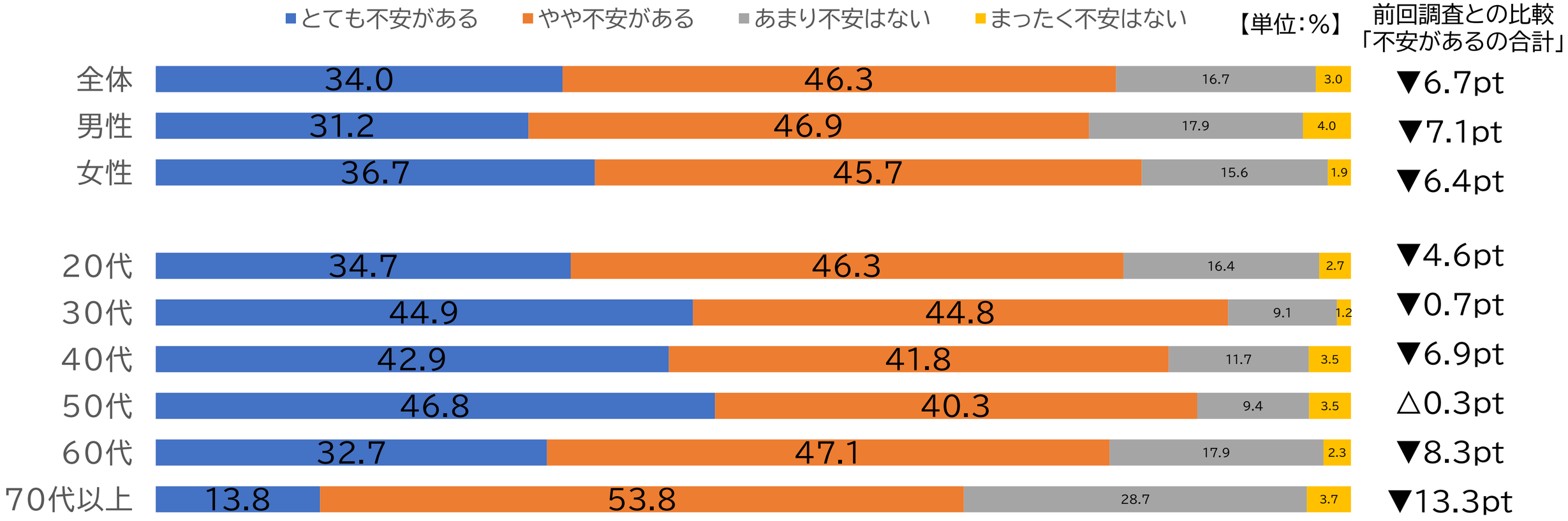
年代別でみると、20代と60代以上が高くなった一方、前回同様40代、50代が低くなっています。この世代はさまざまなライフイベントが重なる時期でもあり、現実の問題に対応しなければならず、「夢」「生きがい」まで考える余裕がないのかもしれません。



Q7.あなたは、自分の老後に不安がありますか？

全体・男女別・年代別

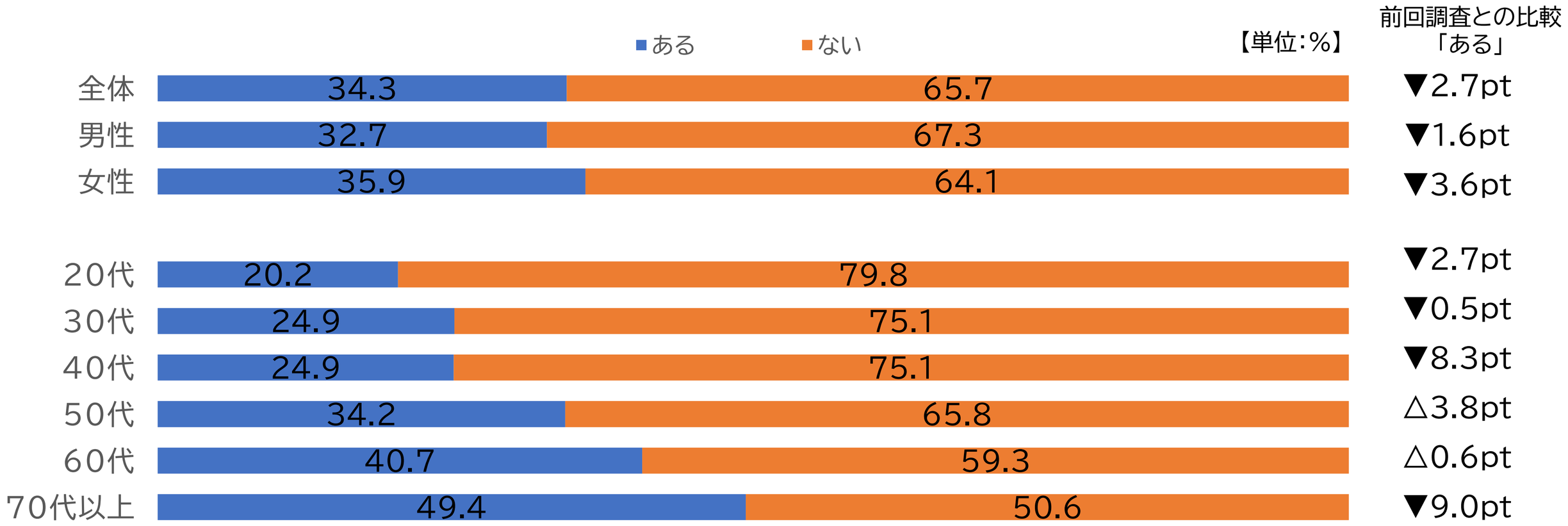
老後に不安がある人の割合は、全体で約8割と多数を占めますが、その割合は前回よりも減少しました。特に70代以上は▼13.3ptと大きく減少しており、「とても不安がある」人の割合も他の世代より大幅に低くなっています。前回調査時（2020年）はコロナ禍で先が見えない不安を抱えていた人が多かったのに対し、現在は感染も落ち着き社会活動も再開・活発化しているという背景があります。ただし、全体の8割超の人が不安を抱えているという結果については、老後の家計、健康、介護、医療、孤独など、先が見えない不安があることが考えられます。



Q8-1.あなたは、家族で自分の「老後や相続のこと」を話し合ったことがありますか？

全体・男女別・年代別

自分の老後や相続のことについて、家族と話し合ったことがある人の割合は34.3%と前回より微減でした。当然ですが、年代が上がるにつれて話し合ったことがある人の割合は高くなり、60代で約4割、70代以上で約半数の人が話し合ったことがあると回答しています。ただし、70代で話し合ったことがある人の割合は前回より減少しました。

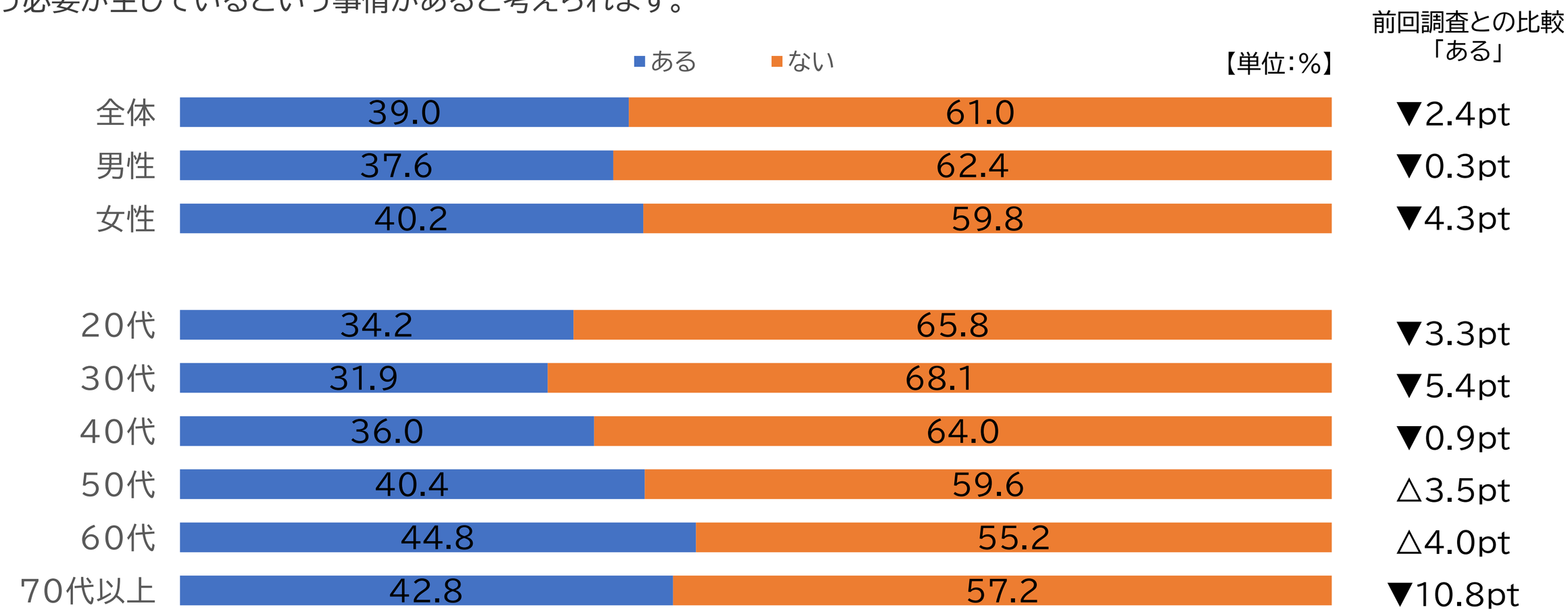


Q8-2.あなたは、家族で家族の「老後や相続のこと」を話し合ったことがありますか？

全体・男女別・年代別

話し合ったことのある人の割合は全体で39.0%と前回より2.4pt減少しました。

70代が10pt以上減少した反面、50代、60代の割合が増加しているのは、「自分が子の立場」で高齢の親と向き合う必要が生じているという事情があると考えられます。

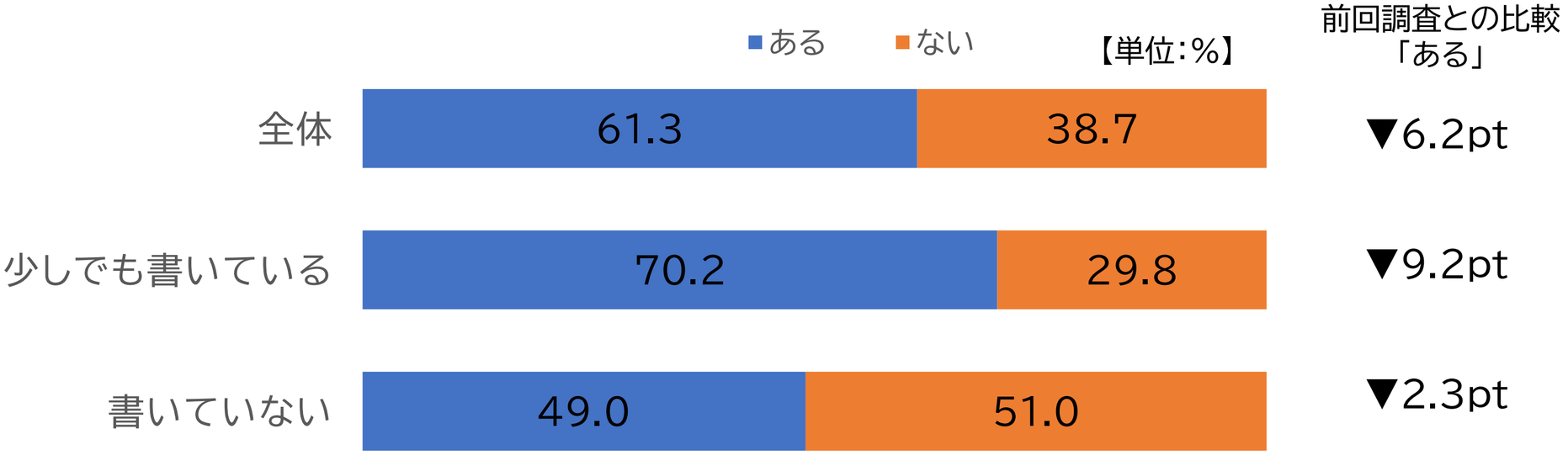


Q5×8-1.エンディングノートを書いているは、自分の「老後や相続のこと」を家族と話経っているか？

全体

エンディングノートを書いている人は、自分の老後や相続について家族と話し合っている人の割合が約7割、書いていない人は約5割と大きな差がありました。

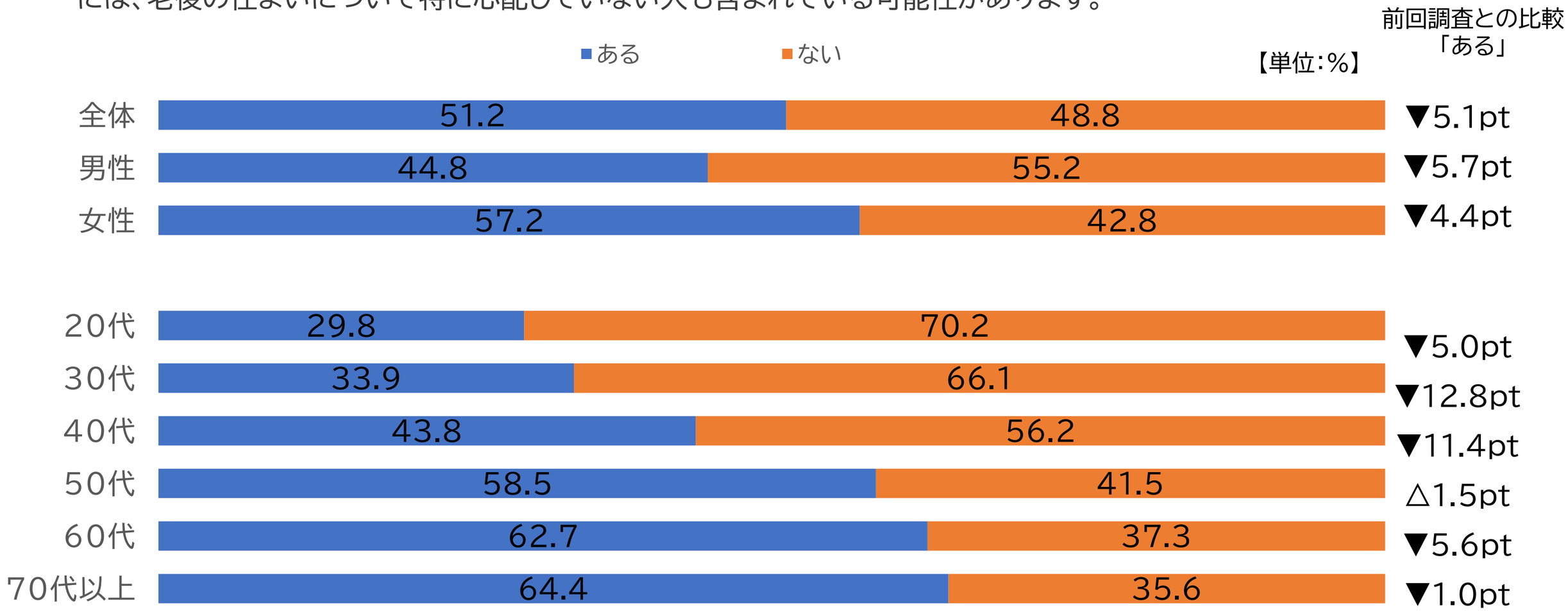
エンディングノートを書くことが、家族とのコミュニケーションのきっかけになっている可能性があります。



Q9.あなたは、自分の「老後の住まい」について考えたことがありますか？

全体・男女別・年代別

老後の住まいについて考えたことがある人の割合は、全体で51.2%と約半数で、前回より5.1%下がりました。女性が男性に比べて12.4pt高くなっているのは、配偶者が亡くなった後の住まいについて心配している人が多いことが考えられます。当然ながら、高齢者ほど考えている人の割合は高くなっていますが、「ない」と回答した人の中には、老後の住まいについて特に心配していない人も含まれている可能性があります。

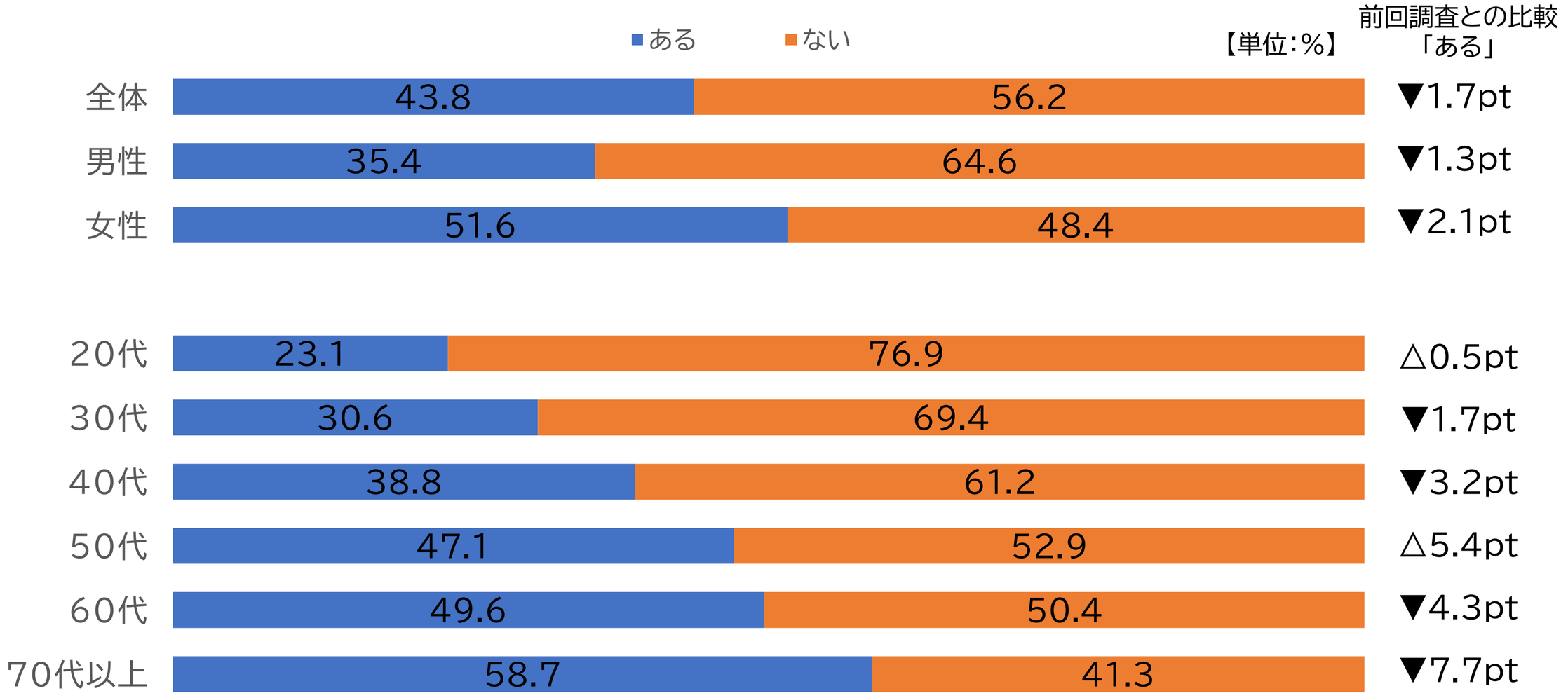


Q10-1.あなたは、自分の「介護」について考えたことがありますか？

全体・男女別・年代別

自分の介護について考えたことがある人は全体で43.8%と前回から微減でした。

介護についての考えは、男女差が大きい質問項目で、女性が51.6%、男性が35.4%と、16.2ptの差がありました。

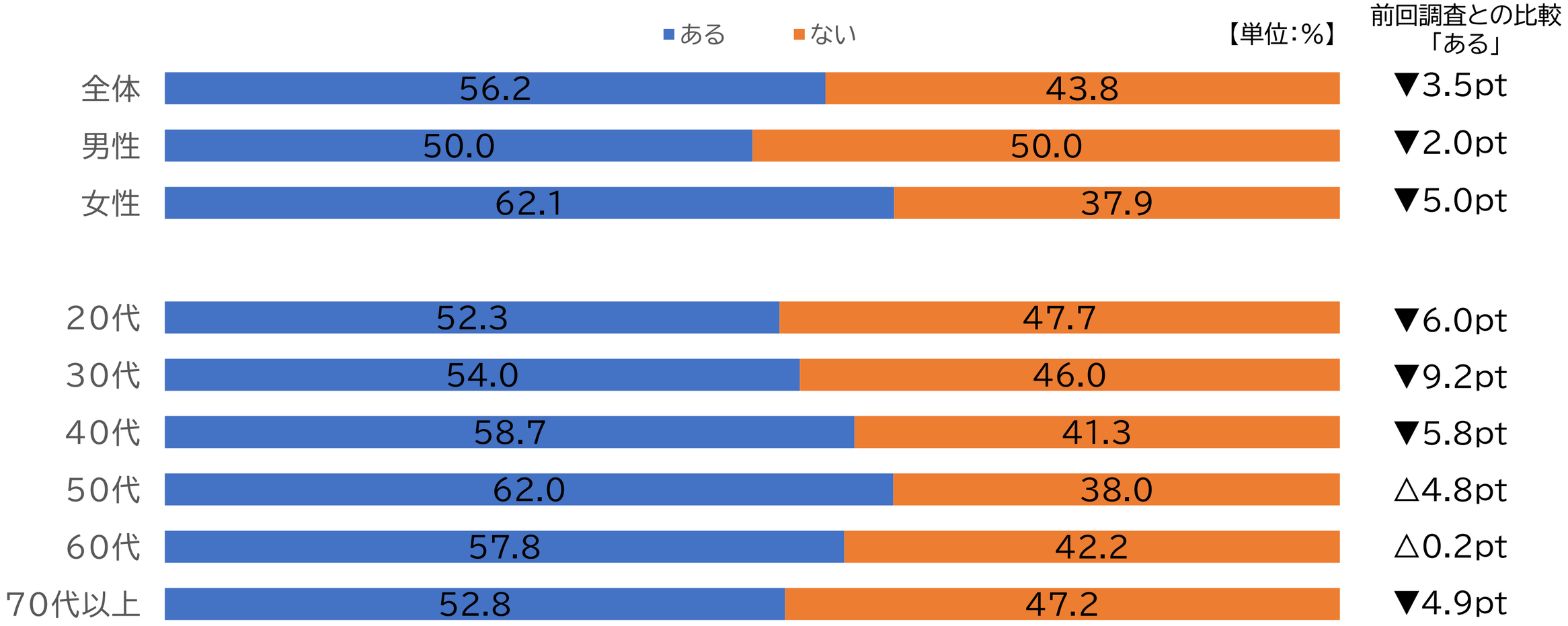


Q10-2.あなたは、家族の「介護」について考えたことがありますか？

全体・男女別・年代別

家族の介護については、全体で56.2%の人が考えたことがあると回答しています。自分の介護については、高齢になるほど考える人の割合は増えますが、家族の介護については世代の差はあまり生じませんでした。ただし、実際に介護世代に入る50代の割合はやや高くなっています。

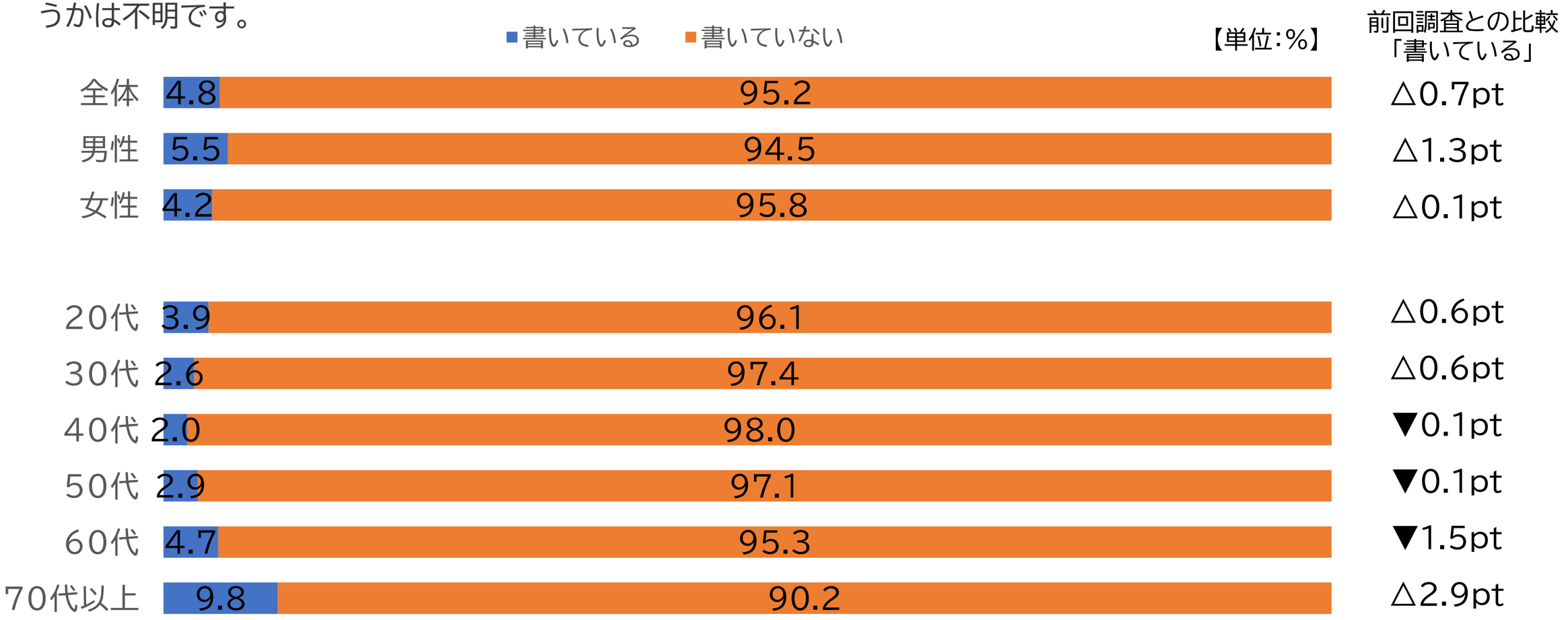
Q10-1と同じく女性が62.1%、男性が50.0%と男女差が大きい結果となりました。



Q11.あなたは、「遺言」を書いていますか？

全体・男女別・年代別

遺言を書いている人の割合は、全体で4.8%で前回(4.1%)よりも0.7pt増加しましたが、まだ少数派といえます。
その中で、70代以上の割合は大きく伸び、約10人にひとりが書いています。男性で書いている人の割合が高いのは、多くの財産を所有しており、円滑な財産承継を行う必要性が高いことも理由としてあげられます。
なお、質問では、法的に有効な遺言と限定していないため、特に若年層では、法的に有効な遺言を書いているかどうかは不明です。

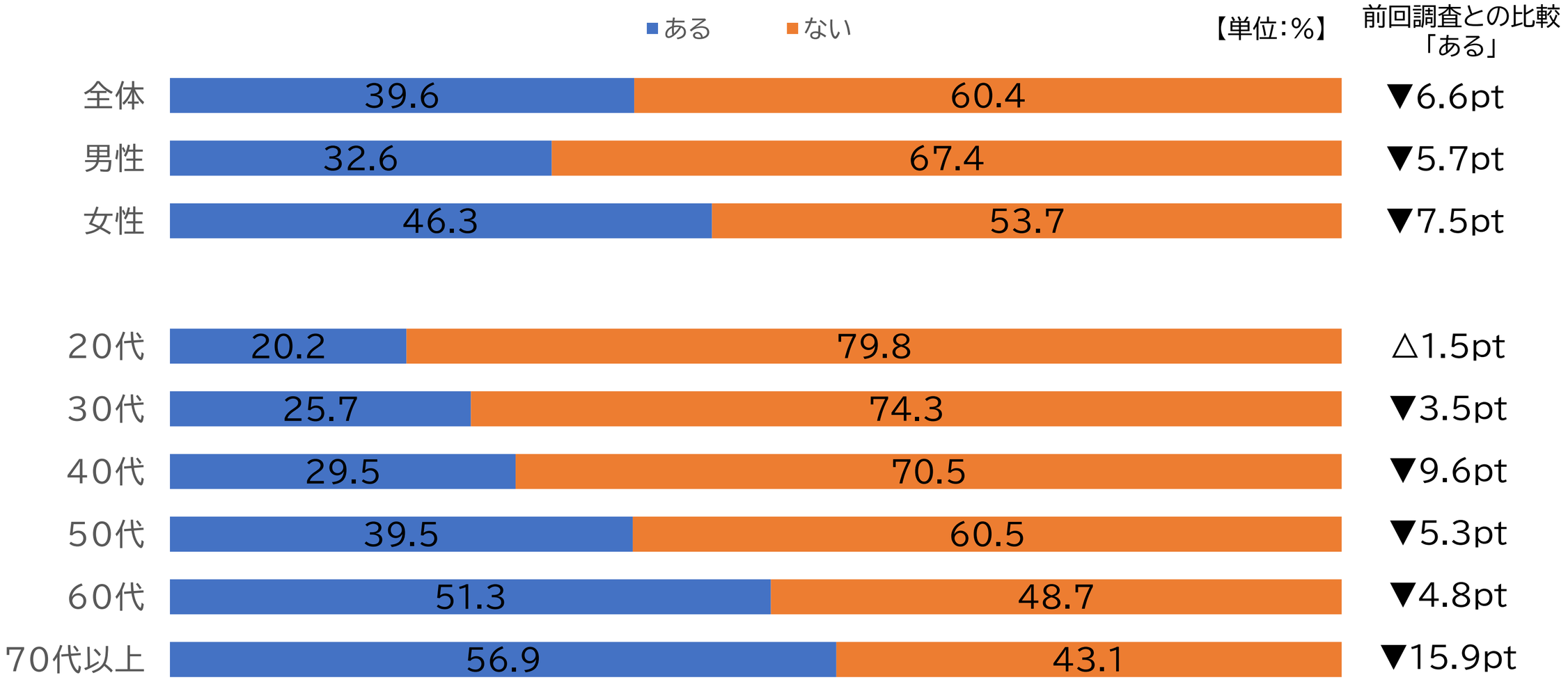


Q12.あなたは、自分の「葬式」について考えたことがありますか？

全体・男女別・年代別

全体としては39.6%と、前回よりも6.6pt下がりました。

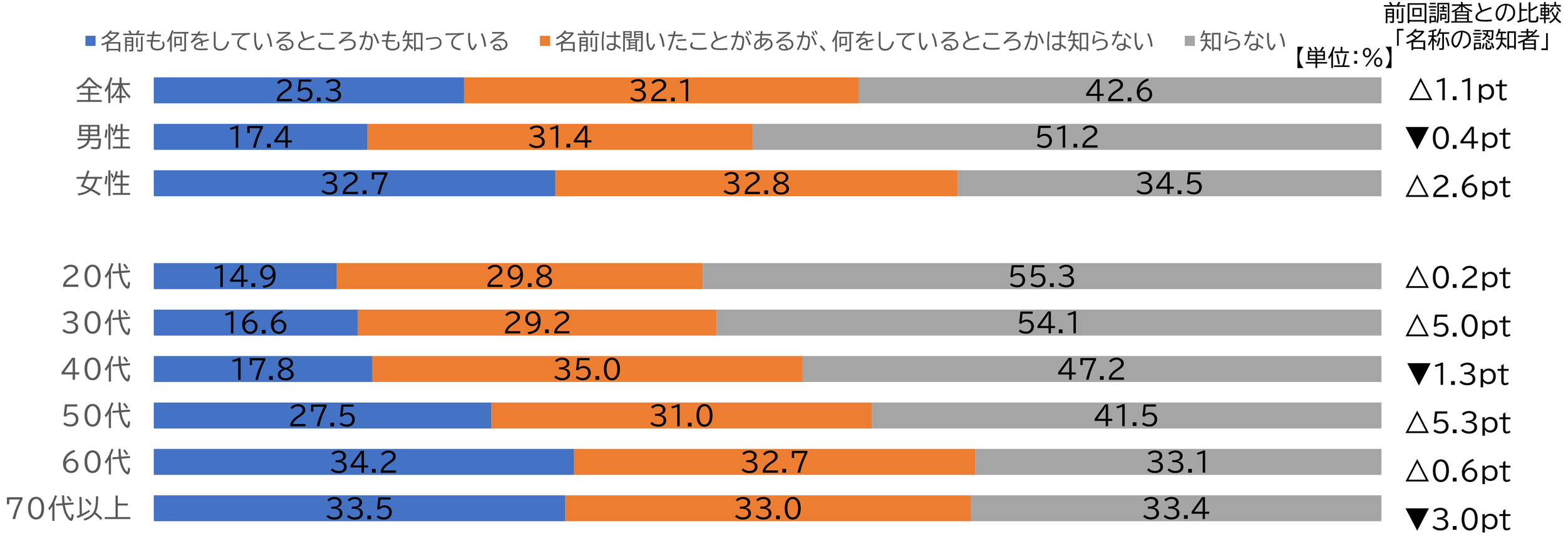
女性は46. 3%と男性よりも13.7pt高くなっています。近年はお葬式も多様化しており、女性のほうが様式や家柄にとらわれず、自分らしいお葬式をコーディネートしたいという意識の表れかもしれません。



Q13-1.あなたは、「地域包括支援センター」を知っていますか？

全体・男女別・年代別

全体の認知度は57.4%で前回からほぼ横ばいでした。女性の方が認知度が16.7%高くなっています。「名前だけは知っている」人よりも「内容まで知っている」人の割合が低く、内容まで知っている人の割合はまだ低い状況です。一方で、60代以上は3分の2の人が知っており、内容を知っている人の割合も高くなっていることからも、実際に家族が要支援・要介護の状態になって初めて地域包括支援センターのサポート内容を知る人も多いと考えられます。

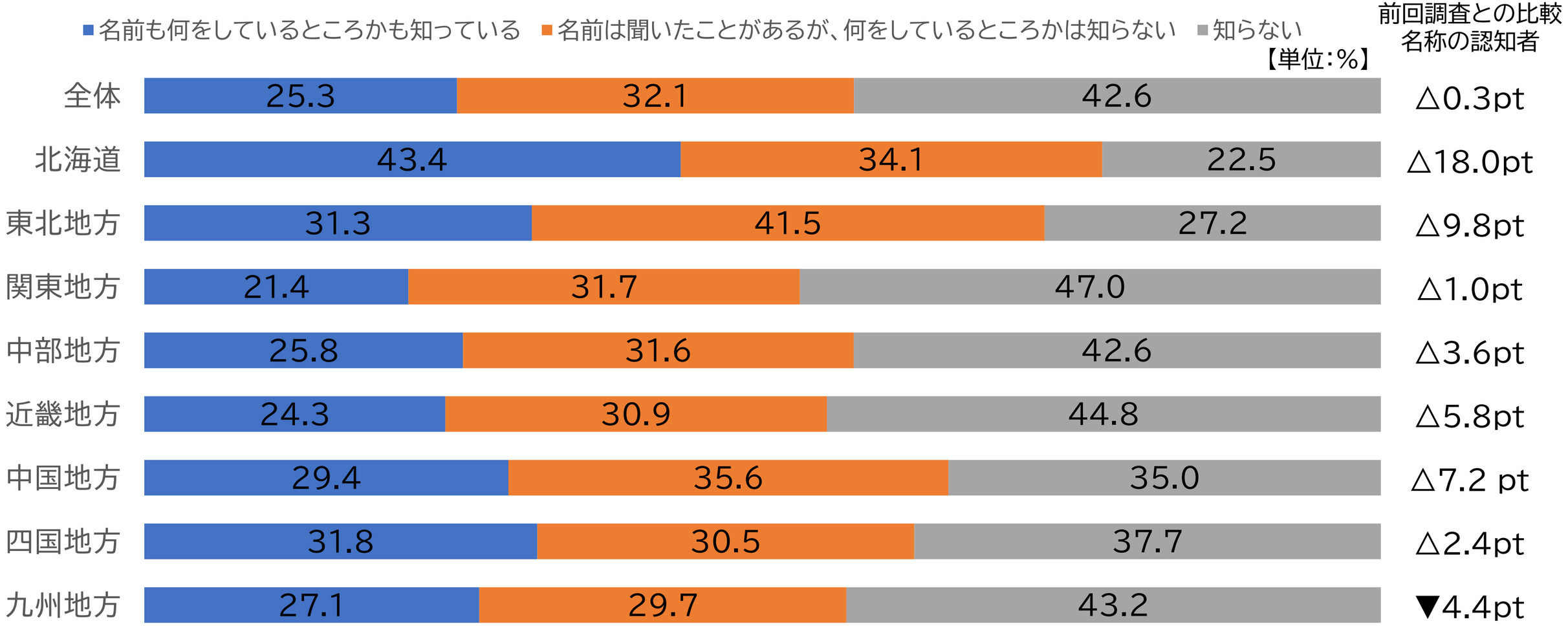


Q13-2.あなたは、「地域包括支援センター」を知っていますか？

全体・地域別

地域別にみると、前回は地域差が小さかったのに対し、今回は北海道、東北で認知度が大きく増えました。

特に北海道ではサポート内容まで知っている人の割合が43.4%と飛びぬけて高く、全体平均の25.3%を大きく上回りました。

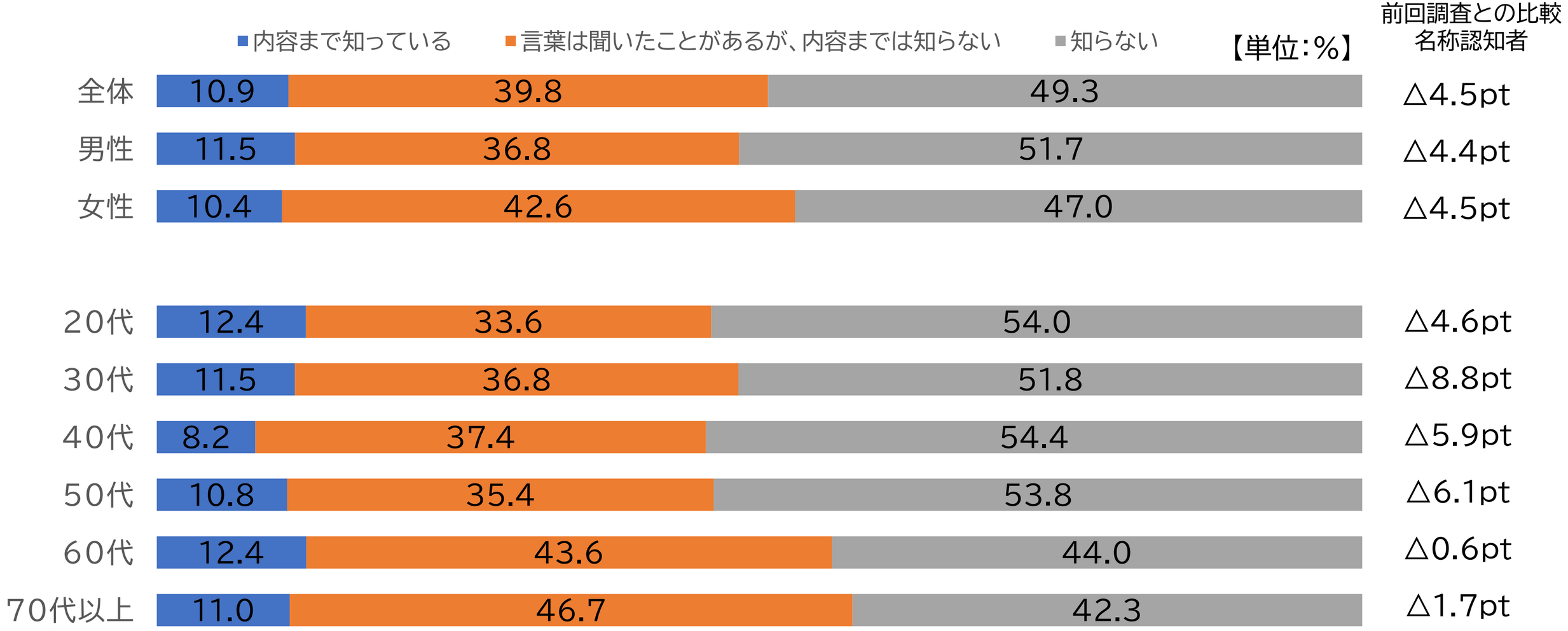


Q14.あなたは、「2025年問題」について知っていますか？

全体・男女別・年代別

2025年には、全ての団塊の世代の人が後期高齢者（75歳以上）になります。この年は、高齢化率も30%に達すると予測されており、社会保障費の増加が懸念されています。

メディアでの発信も増えたことにより、全体の認知度は50.7%と前回より4.5pt増えました。



Q15.あなたは、「ACP」を知っていますか？（認知経路別）

全体・男女別・年代別（初回調査）

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは？：将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのこと（東京都医師会HPより）

ACPについての全体の認知度はまだ低く10.7%でした。年代別では若者世代が高く、20代が17.9%と全体を大きく上回っています。反面、40代以上では知らないという人がほぼ9割で、ACPが最も必要とされる高齢者世代の認知度の低さが目立ちます。認知経路では、若年層はソーシャルメディアと医療機関から、高齢者世代では、テレビ・ラジオの番組からが上位となっています。

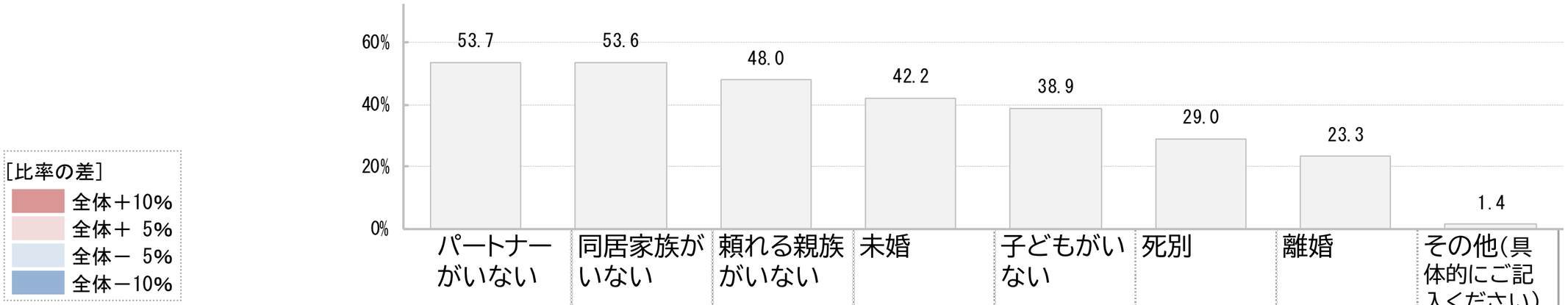
【単位%】

		経路別（詳細）												カテゴリー別				
		A	C	A	D	B	B	C	B	C	C			A	B	C	D	
		テレビやラジオの番組	医療機関からの情報	自治体の広報やHP	SNS：Facebook X、LINEなどの情報	地域のコミュニティやサークル	友人・知人から	福祉施設や介護施設からの案内	家族からの情報	セミナーや講演会への参加	ケアマネジャーから	その他	ACPという言葉は知らない	公的・マスメディア	人的ネットワーク	専門家	デジタル	全体の認知度
全体		4.0	2.8	2.3	2.2	1.9	1.7	1.3	1.2	1.1	0.7	0.6	89.3	5.1	4.0	4.5	2.2	10.7
性別	男性	4.7	3.2	3.1	3.2	2.0	2.2	2.0	1.8	1.5	1.0	0.3	87.4	6.4	4.8	5.8	3.2	12.6
	女性	3.2	2.4	1.6	1.3	1.0	1.2	0.7	0.5	0.6	0.5	0.9	91.1	3.9	3.2	3.3	1.3	8.9
年代別	20代	4.7	5.9	2.3	5.9	2.1	4.7	3.2	3.8	3.3	2.1	1.2	82.1	5.9	7.7	9.7	5.9	17.9
	30代	3.0	4.4	1.2	3.0	1.8	0.6	2.6	1.5	1.5	1.2	1.4	87.7	3.5	3.2	6.7	3.0	12.3
	40代	4.1	2.3	2.3	1.8	1.5	2.4	0.3	1.2	0.6	0.3	0.3	89.5	5.6	4.1	3.5	1.8	10.5
	50代	2.6	2.3	2.3	1.8	1.5	2.4	0.3	1.2	0.6	0.3	－	92.1	4.1	2.9	3.8	2.3	7.9
	60代	5.8	1.7	2.6	1.5	2.6	1.8	0.6	0.6	0.6	0.6	－	89.5	7.9	4.1	2.9	1.5	10.5
	70代以上	3.8	1.8	2.8	0.8	1.9	0.9	0.8	0.3	0.6	0.3	0.9	91.7	4.3	3.1	2.9	0.8	8.3

Q16.あなたが考える「おひとりさま」の特徴はどれですか？

全体・男女別・年代別（初回調査）

おひとりさまの特徴のトップ3は、「パートナーがいない（53. 7%）」「同居家族がいない（53. 6%）」「頼れる親族がいない（48%）」でした。若い世代（20代、30代）では、「頼れる親族がいない」「未婚」を選ぶ人も多く、60代以上では「同居家族がいない」がトップとなりました。「子どもがいない」を選ぶ人が、どの世代でもそれほど多くはないものの、20代では3割未満と特に少なく、少子化を反映した結果となりました。

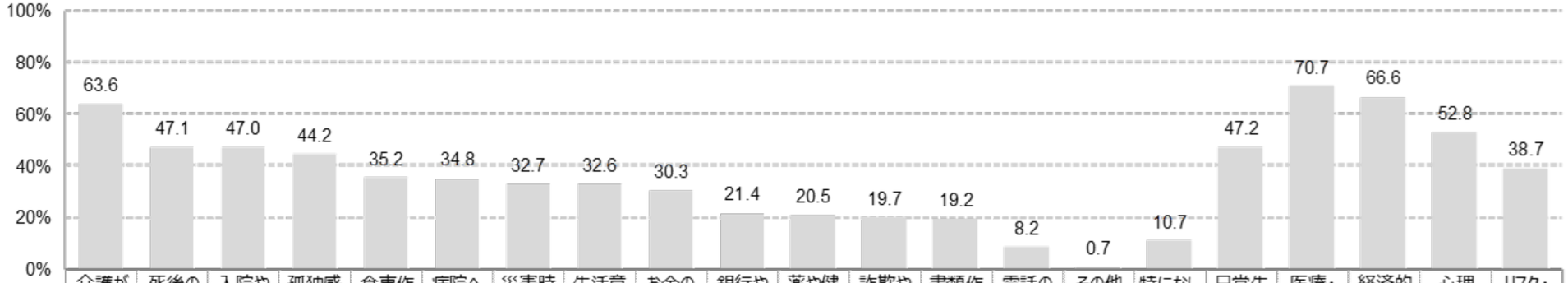


		パートナーがいない	同居家族がいない	頼れる親族がいない	未婚	子どもがいない	死別	離婚	その他（具体的にご記入ください）
全体		53.7	53.6	48.0	42.2	38.9	29.0	23.3	1.4
性別	男性	52.1	52.7	49.6	40.3	36.7	28.0	21.5	1.2
	女性	55.3	54.5	46.6	44.0	41.0	30.0	25.1	1.6
年代別	20代	44.6	41.5	53.2	49.4	28.0	20.7	17.5	0.9
	30代	54.6	49.2	53.3	51.1	41.6	23.1	21.6	1.8
	40代	56.4	52.9	47.3	48.8	40.3	26.0	23.0	0.9
	50代	58.2	51.7	45.9	44.7	39.2	27.5	26.9	0.3
	60代	55.0	57.4	42.3	40.2	37.5	35.7	28.5	2.6
	70代以上	52.0	61.3	48.0	28.7	42.4	35.4	21.8	1.9

Q17.あなた自身が「高齢のおひとりさま」になった場合、困ると思うことは何ですか？

全体・男女別・年代別
（2024年初回調査）

困りごとの上位は、「介護が必要になったときの対応」「死後の手続きを頼める人がいない」「入院や施設入所時の手続きや保証人」「孤独感や精神的な不安」でした。女性の方が男性よりも、「困る」と感じる人が多くなっています。医療・介護関係が上位になったことは予想どおりですが、社会問題になっている「詐欺や犯罪への対応」や、現実的に多くの人が困っている「銀行や役所での窓口対応」「電話の対応」などの身近な困りごとを選ぶ人が少なく、安心して過ごすために「身近に頼れる人を早めに見つけておくことが必要」ということを伝える大切さを感じます。



		介護が必要になったときの対応 B	死後の手続きを頼める人がいない C	入院や施設入所するときの手続きや保証人 C	孤独感や精神的な不安 D	食事作りや家事 A	病院への通院 B	災害時の対応（判断や避難） E	生活意欲の低下 D	お金の管理 C	銀行や役所での窓口対応 A	薬や健康管理 B	詐欺や犯罪への対応 E	書類作成 A	電話の対応 A	その他	特になし	日常生活の維持困難系 A計	医療・介護関連系 B計	経済的管理・手続き・死後の手続き C計	心理的・社会的要因系 D計	リスク・緊急対応系 E計
全体(今回_2024年)		63.6	47.1	47.0	44.2	35.2	34.8	32.7	32.6	30.3	21.4	20.5	19.7	19.2	8.2	0.7	10.7	47.2	70.7	66.6	52.8	38.7
性別	男性	57.4	41.1	38.1	38.9	37.2	29.0	23.7	30.9	25.9	16.2	17.7	13.8	14.0	6.9	0.5	14.0	45.6	64.2	60.5	48.7	28.9
	女性	69.4	52.7	55.4	49.3	33.3	40.2	41.1	34.2	34.5	26.3	23.1	25.2	24.1	9.5	0.8	7.6	48.7	76.8	72.3	56.6	48.0
年代	20代	54.6	49.5	38.7	48.7	34.6	35.3	30.0	33.6	27.4	17.7	21.6	21.0	14.3	13.2	-	14.7	46.2	65.1	65.0	57.8	37.6
	30代	60.9	58.6	48.1	52.8	33.3	38.2	38.1	37.1	35.9	24.5	23.0	20.7	22.4	10.5	0.6	12.9	44.6	68.0	73.2	61.0	43.7
	40代	67.2	54.6	49.3	47.6	36.2	41.1	35.3	35.1	36.5	23.9	22.8	23.6	22.5	10.8	0.9	7.3	48.5	74.2	72.7	54.9	41.7
	50代	68.4	51.8	52.9	43.0	33.9	36.8	30.1	31.6	32.5	19.0	19.9	21.1	18.1	6.1	-	10.2	44.2	73.7	71.9	51.8	37.7
	60代	63.9	37.2	48.9	41.1	32.8	31.7	30.9	30.2	29.1	21.5	20.2	21.9	21.2	7.1	0.9	10.8	45.8	70.6	63.5	49.8	37.9
	70代以上	63.4	37.2	43.7	37.7	38.1	28.6	31.9	30.1	23.5	21.2	17.4	13.5	16.8	4.8	1.2	10.3	51.0	70.5	57.6	46.7	35.5

[比率の差]
- 全体+10ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 +5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 -5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体-10ﾎﾟｲﾝﾄ

※「全体(今回_2024年)」のスコアで降順ソート

Q17×Q10-1.「自分の介護のこと」を考えている人と、「困ると思うこと」の関係は？ ①

【Q10-1 全体で「介護を考えたことがある」のは4割強 】

■ Q17で「何らかの困りごとをイメージしている人」では、「介護を考えたことがある」の回答は、46～53%とやや高い。
具体的な課題認識があるほど介護意識も自然に高まるという関連が見える。

■ 窓口対応・書類作成・電話対応など、具体的行為を懸念する層は5～6割が「介護を考えている」
“将来自分で対処できないかもしれない”という現実味のある困難が想像しやすく、介護ニーズが顕在化している可能性が高い。

■ 心理的不安や緊急リスクを感じる層も5割以上
特に詐欺・犯罪対応は58.1%と高い。これらは「急に判断能力が落ちたらどうするか」という発想に結びつきやすい。

■ 「特になし」は、最も低い22%
「自分の介護のこと」を考えている人は、何らかの危機感を感じている人が多い。

Q17×Q10-1.「自分の介護のこと」を考えている人と、「困ると思うこと」の関係は？ ②

【提言・示唆】

■ 具体的行動レベルの課題を提示すると、介護意識の喚起につながりやすい

■ 役所窓口や電話対応など、身近なタスクが焦点となると、自分の将来像がリアルに思い浮かぶ → 介護や支援を検討。

■ 緊急リスク（災害・詐欺）への恐れも介護を考えるきっかけ

→行政やNPOの啓発で「詐欺に遭わないための対策＝判断力低下時の支援者の存在が重要」とアピールすれば、

「今から介護や後見人の話をしておこう」と繋がる可能性あり

【まとめ】

■ “高齢のおひとりさまになったとき困ること” を挙げている人ほど、介護を考えている率が高い。

特に日常生活（電話・窓口・書類作成等）や緊急リスクを具体的に想像する層は5～6割が介護を意識。

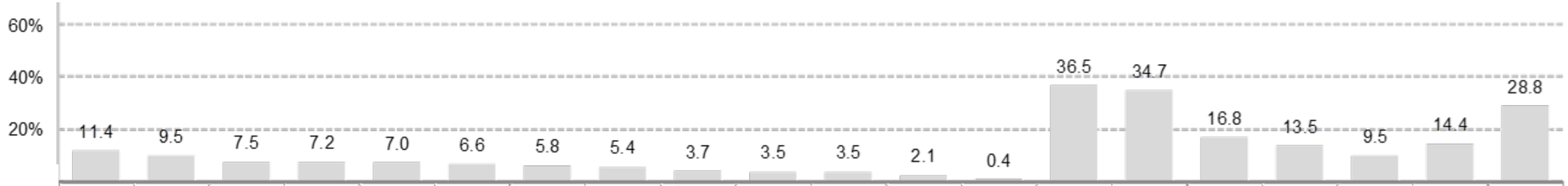
■ 反面、「特に困ることなし」とする層（全体の1割超）では、2割しか介護を考えていないなど、大きなギャップが見られる。

■ 行政・医療介護関連の支援策としては、具体的な行動レベルの不安を可視化し、「将来自力では難しくなるかも」という気づきを与える啓発活動が、今のうちから介護や支援体制を整える行動につながる可能性が高いと考えられる。

Q18.あなたは将来「高齢のおひとりさま」になったときの準備をしていますか？

全体・男女別・年代別
（初回調査）

何らかの準備をしている人は全体で28．8%と男女差は見られませんでしたが、高齢になるほど、割合は高くなります。準備の内容では「遺言書の作成」や「身元保証人や死後事務委任者の確保」「社会参加やボランティア活動」は男性が多く、「家族と友人との話し合い」「エンディングノートの作成」などは女性が多く、男女で異なっています。また「関心はあるが具体的な行動はしていない」人に対して具体的な行動を促すにはどうしたらいいかを考えていくべきでしょう。



		家族や友人との話し合い A	財産や資産の整理 C	趣味や生きがいの仲間づくり A	葬儀やお墓の準備 D	医療・介護に関する希望の明確化 B	エンディングノートの作成 B	住まいの見直し D	遺言書の作成 B	身元保証人や死後事務委任者の確保 D	社会参加やボランティア活動 A	おひとりさま向けサービスの利用・契約 D	任意後見人との契約 D	その他	関心はあるが、具体的な行動（準備）はしていない	考えたことがない	人・コミュニティ A計	計画・意思表示 B計	財産等の整理 C計	サービス活用 D計	準備をしている・計＊
全体(今回_2024年)		11.4	9.5	7.5	7.2	7.0	6.6	5.8	5.4	3.7	3.5	3.5	2.1	0.4	36.5	34.7	16.8	13.5	9.5	14.4	28.8
性別	男性	9.7	9.9	7.2	6.6	6.4	5.5	6.1	6.2	4.6	4.1	3.5	2.7	0.5	31.4	39.7	15.9	12.6	9.9	14.8	29.0
	女性	13.1	9.0	7.7	7.9	7.6	7.6	5.4	4.7	2.8	2.9	3.5	1.5	0.3	41.2	30.1	17.5	14.3	9.0	14.1	28.7
年代	20代	8.3	6.5	9.7	4.7	4.4	3.5	4.1	5.3	4.7	5.3	5.0	3.2	-	23.2	55.3	17.1	8.8	6.5	12.3	21.5
	30代	7.0	7.1	7.9	4.1	5.9	4.7	3.5	5.0	2.3	2.4	2.9	2.9	-	27.4	52.1	12.0	10.9	7.1	8.9	20.5
	40代	7.9	7.3	5.5	2.9	5.3	5.8	4.7	3.5	2.6	2.0	3.5	1.8	0.6	33.9	42.7	12.6	9.6	7.3	9.9	23.4
	50代	7.9	6.7	3.8	6.7	5.6	5.3	5.8	5.0	2.9	2.3	2.6	1.5	0.6	45.6	31.6	11.7	12.0	6.7	12.6	22.8
	60代	13.8	12.1	8.2	9.7	5.3	7.3	7.3	5.6	4.7	4.1	3.2	3.2	-	42.5	24.7	18.5	12.4	12.1	17.9	32.9
	70代以上	18.8	14.0	9.5	12.2	12.2	10.0	7.5	7.4	4.5	4.6	3.7	1.2	0.8	40.0	17.8	24.4	21.8	14.0	20.8	42.2

[比率の差]
- 全体+10ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 +5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 -5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体-10ﾎﾟｲﾝﾄ

＊準備をしている・計（100-「関心はあるが、具体的な行動（準備）はしていない」-「考えたことがない」）

※「全体(今回_2024年)」のスコアで降順ソート

Q19.あなたの住む地域で提供されている「高齢者向けのおひとりさま支援サービスや制度」を知っていますか？

全体・男女別・年代別
（初回調査）

およそ7割の人が「知らない」という結果になりました。年代別では30代～50代の認知度が低い一方で、20代では、「利用したことがある」+「内容まで知っている」の割合が8.5%と高い点が目立ちます。若い世代はネット検索で多くの情報を得ているのかもしれません。

■利用したことがある　■利用したことはないが、内容まで知っている　■なんとなく聞いたことがあるが、内容までは知らない　■知らない

[比率の差]
- 全体+10ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 +5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 -5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体-10ﾎﾟｲﾝﾄ

(%)

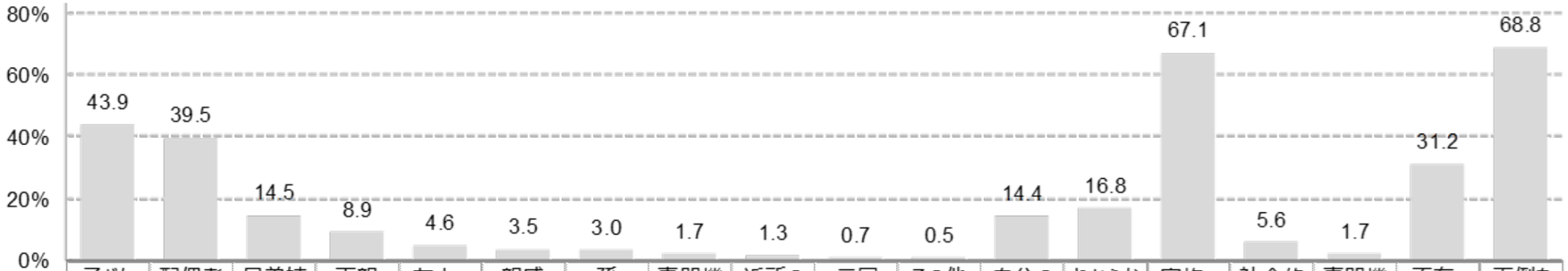
		利用したことがある	利用したことはないが、内容まで知っている	なんとなく聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	内容認知・計	言葉認知・計
全体(今回_2024年)		4.1	22.4		72.9	4.7	27.1
性別	男性	4.0	22.2		72.8	5.0	27.2
	女性	4.2	22.5		73.0	4.5	27.0
年代	20代	7.1	19.4		72.1	8.5	27.9
	30代	2.9	20.2		75.7	4.1	24.3
	40代	3.2	19.9		76.6	3.5	23.4
	50代	2.9	19.3		77.5	3.2	22.5
	60代	3.5	26.4		69.8	3.8	30.2
	70代以上	5.1	26.4		68.0	5.7	32.0

※内容認知・計（「利用したことがある」+「利用したことはないが、内容まで知っている」）
※言葉認知・計（「利用したことがある」～「なんとなく聞いたことがあるが、内容までは知らない」）

Q20.あなたは、もしものときに自分の面倒をみてくれる人はいますか？

全体・男女別・年代別
（初回調査）

年代が年代が高くなるほど、「面倒をみてくれる人がいる」と回答した人が多くなっています（全体では68. 8%）。
70代以上では71.5%が「子ども」、51.4%が「配偶者」と回答しています。
しかし、若い世代になるほど、「子ども」「配偶者」と回答した人が少なくなり、一方で「誰もいない・わからない」という人の割合が大きくなっています。



		子ども A	配偶者 A	兄弟姉妹 A	両親 A	友人・知人 B	親戚（おじ・おば・いとこなど） A	孫 A	専門機関や保証サービス等 C	近所の方 B	元同僚・仕事関係者 B	その他	自分の面倒を見てくれる人はいない D	わからない D	家族・親族 A計	社会的ネットワーク B計	専門機関等 C計	不在・不確定 D計	面倒を見てくれる人がいる・計
全体(今回_2024年)		43.9	39.5	14.5	8.9	4.6	3.5	3.0	1.7	1.3	0.7	0.5	14.4	16.8	67.1	5.6	1.7	31.2	68.8
性別	男性	36.6	41.6	13.7	8.3	4.7	3.7	3.2	2.0	1.5	0.6	0.4	15.9	19.2	62.9	5.9	2.0	35.2	64.8
	女性	50.8	37.6	15.3	9.5	4.6	3.4	2.9	1.5	1.2	0.7	0.5	12.9	14.6	71.1	5.3	1.5	27.5	72.5
年代	20代	11.6	21.8	24.6	29.8	11.2	7.0	0.6	0.9	1.5	2.1	0.6	14.0	26.9	55.5	12.7	0.9	41.0	59.0
	30代	26.8	38.5	18.1	16.6	4.4	4.4	0.3	1.5	0.3	0.9	0.3	15.6	25.1	58.1	5.0	1.5	40.7	59.3
	40代	38.0	35.3	18.4	12.3	5.2	3.5	0.3	2.6	0.6	1.2	0.6	20.5	20.5	57.0	6.1	2.6	41.0	59.0
	50代	40.1	36.0	13.5	4.7	3.8	2.9	0.9	0.9	1.2	0.3	0.6	16.1	20.5	62.3	4.1	0.9	36.5	63.5
	60代	50.9	43.7	9.0	0.9	3.8	1.8	2.3	2.1	1.2	0.3	0.6	16.1	11.9	69.4	4.7	2.1	27.9	72.1
	70代以上	71.5	51.4	9.1	-	2.2	2.9	9.6	2.0	2.6	-	0.3	7.3	5.4	86.9	3.6	2.0	12.8	87.2

[比率の差]
- 全体+10ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 +5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体 -5ﾎﾟｲﾝﾄ
- 全体-10ﾎﾟｲﾝﾄ

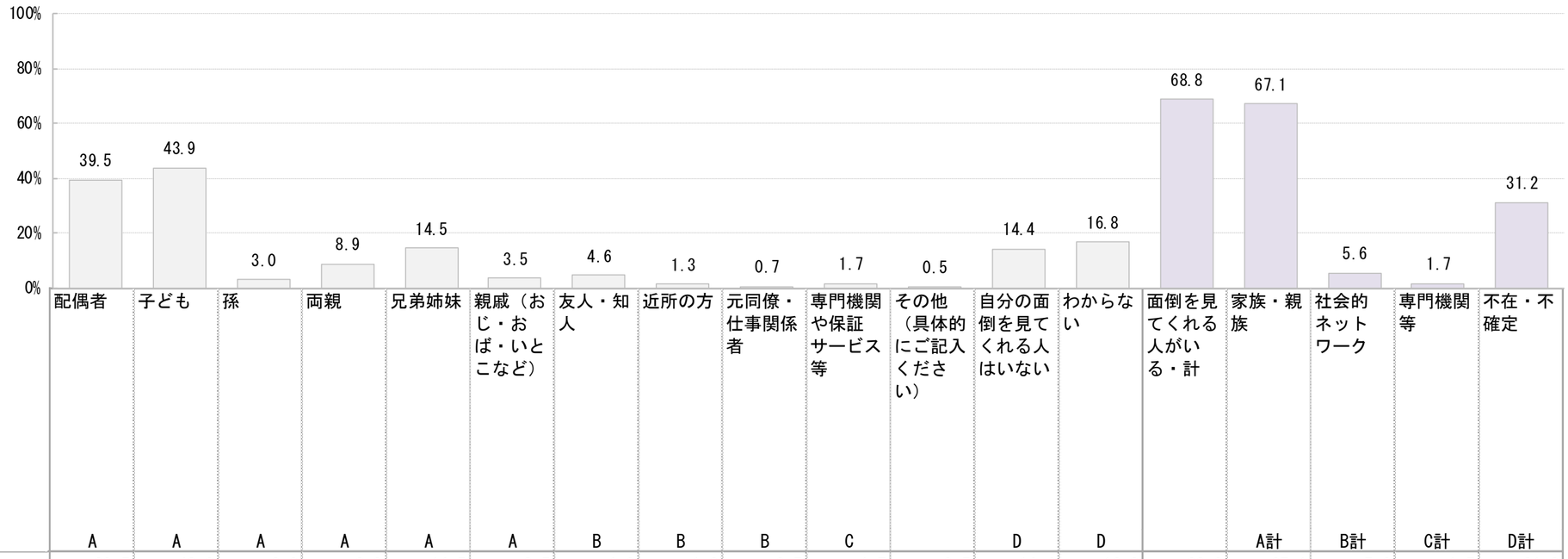
*面倒を見てくれる人がいる・計（100-「自分の面倒を見てくれる人はいない」-「わからない」）

※「全体(今回_2024年)」のスコアで降順ソート

Q20〔別〕. 子の有無と、「もしものときに自分の面倒をみてくれる人」

子の有無別（初回調査）

「面倒をみてくれる人がいる」割合は、子供ありのグループは82.9%、子供なしのグループは47.2%と　大きな差が見られました。面倒をみてくれる人は、子供ありのグループでは、「子供（71.5%）」「配偶者（52.2%）」が多く、子供なしのグループでは「兄弟姉妹（21.5%）」「配偶者（20.2%）」が多くなっています。「親戚」という回答は全体で3.5%、子供がいない人でも5. 6%と少なく、親戚付き合いが希薄になっている現状が読み取れます。



[比率の差]
- 全体＋10%
- 全体＋ 5%
- 全体－ 5%
- 全体－10%

		配偶者 A	子ども A	孫 A	両親 A	兄弟姉妹 A	親戚（おじ・おば・いとこなど） A	友人・知人 B	近所の方 B	元同僚・仕事関係者 B	専門機関や保証サービス等 C	その他（具体的にご記入ください）	自分の面倒を見てくれる人はいない D	わからない D	面倒を見てくれる人がいる・計	家族・親族 A計	社会的ネットワーク B計	専門機関等 C計	不在・不確定 D計
全体		39.5	43.9	3.0	8.9	14.5	3.5	4.6	1.3	0.7	1.7	0.5	14.4	16.8	68.8	67.1	5.6	1.7	31.2
子供有無	子供なし	20.2	1.7	0.6	14.3	21.5	5.6	7.1	0.8	1.2	2.1	0.6	30.3	22.5	47.2	44.0	8.1	2.1	52.8
	子供あり	52.2	71.5	4.7	5.4	10.0	2.2	3.0	1.7	0.3	1.5	0.4	4.0	13.1	82.9	82.2	3.9	1.5	17.1

人生の後半期を
あなたらしく
過ごすために

本調査に関してのご質問は下記までご連絡ください。

NPO法人ら・し・さ/終活アドバイザー協会
kanri@ra-shi-sa.jp
info@shukatsu-ad.com